



環境リモートセンシング 研究センター

Center for Environmental Remote Sensing

Newsletter No.230

千葉大学環境リモートセンシング研究
センター ニュースレター 2025年1月
発行：環境リモートセンシング研究センター

(本号の編集担当：楊偉)

住所：〒263-8522 千葉市稲毛区弥生町 1-33

Tel: 043-290-3832 / Fax: 043-290-2024

URL: <https://ceres.chiba-u.jp/>

リモートセンシングコース修士課程中間発表会

リモートセンシングコースの修士課程中間発表会が2024年12月23日に松陰会館で行われました。今回発表を行った学生は、昨年度の10月入学生と今年度の4月入学生で、21名でした。質疑応答の時間では、発表者は教員からの質問に鋭意に対応するとともに、今後の研究推進の参考になるようなアドバイスをいただいたりし、6分間の質疑時間が足りない場面も見受けられました。

また、今年も学生の研究活動の奨励を目的にCEReS教員・研究員による審査が行われ、優秀発表賞は入江研究室の溝渕隼也さん、楊研究室の林婉琦さん、本郷研究室の森貴之さんに授与されました。3名の学生の皆さん、おめでとうございます！

CEReS教員一同、発表学生の皆さんが今後さらに研究を発展させていくことを期待しております。

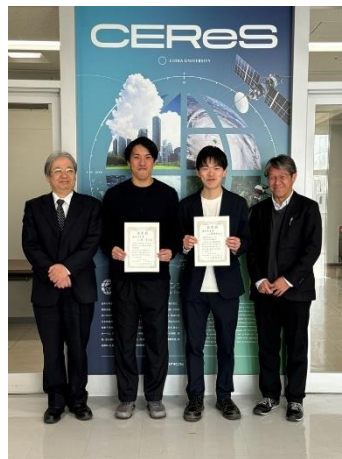
(学務委員：本郷千春)



中間発表会の様子（松韻会館・第1会議室）

研究室	氏名	修士論文（仮）タイトル
小槻・岡崎	白石健太	データ同化に適したAI気象予測モデルの開発
ヨサファット	王宇旋	Dual Polarized L Band Microstrip Antenna for Feeder of Microsatellite onboard Full Polarimetric CP-SAR
樋口	南保圭佑	フェーズドアレイ気象レーダが捉えたファーストレーダエコーの時空間特性 自動セル追跡手法を用いた試み
小槻・岡崎	齋藤侑紀	ダム上流域平均降水量の予測可能性の解明
市井・山本	柴山怜雄	静止衛星ひまわり8号を用いた植物の環境ストレスの早期検出
楊	林婉琦	Quantifying landscape heterogeneity around flux towers using CubeSat images with high spatiotemporal resolutions
ヨサファット	川並大晟	合成開口レーダによる千葉県内の盛土観測とその評価
入江	溝渕隼也	MAX-DOAS法による大気下層水蒸気濃度の水平不均一性の長期連続観測
市井・山本	山崎蒼麻	ひまわり8号を用いた東南アジアメガシティのヒートアイランド解析
ヨサファット	市村将輝	災害監視用無人機搭載合成開口レーダ用のアレーアンテナの開発
楊	李恒	Evaluation of satellite data with different spatial and temporal resolutions for mapping burned areas
入江	押見敏暉	黄砂に着目した日本のエアロゾルの長期トレンド解析
本多・梶原	中川拓人	間伐による森林貯蔵バイオマス量変化の評価 ～択伐による森林劣化評価に向けて～
楊	陳睿	Evaluation of BRDF models using airborne and satellite-based land surface observations

小槻・岡崎	高橋慎公	航空機安全運行に向けた花巻空港における山岳波検出手法の開発
齋藤	吉井太一	衛星観測の GHG カラム平均濃度データを用いた南アジアのメタン放出源の特徴解析
市井・山本	長谷美咲	ひまわり 8 号を用いた東南アジア域における植生の季節変動動態の解明
楊	植田 晴	衛星リモートセンシングを用いたソーラーパネルの空間分布の解明
本郷	森 貴之	Sentinel-2 衛星データを用いた農業生産における灌漑水と病虫害の関係解明
齋藤	林 勇佑	衛星のカラム量データの超過濃度比を用いた東アジアの CO ₂ 放出の影響評価
市井・山本	平間達也	ひまわり 8 号を用いた葉面積指数の推定



服部センター長から優秀発表賞授与：工総研 8 階 CEReS デザインシート前にて
 (左：溝渕隼也さん、右：森 貴之さん、中央：服部センター長、入江コース長と受賞者)
 なお、都合により出席できなかった林婉琦さんの授与式は後日行われ、この様子については別号の CEReS ニュースでお伝えする予定です。

雨量計から全球降水量分布を推定する新たな手法を提案

～ 小槻・岡崎研究室通信・第 44 号～

雨量計データから全球の降水量分布を推定するための新たな手法を提案した論文 (Muto and Kotsuki, 2024) の英文プレスリリースが千葉大学から出ました。

本研究の一番の独自性は、点々としたデータである雨量計観測から空間内挿を行って降水量分布を推定するにあたり、局所アンサンブル変換カルマンフィルタというデータ同化手法を活用することで、物理モデルに基づく再解析データの情報を取り込んだ点です。このようにして、地点間の力学的関係性が考慮された再解析データの情報を雨量計観測と効果的に統合することで、NOAA CPC が公開している世界的な雨量計ベースの全球降水量プロダクトを上回る精度のプロダクトの開発に成功しました。この手法により、とりわけ雨量計分布の密度が低い地域での降水量推定が大きく向



Muto and Kotsuki (2024)に関する
英文プレスリリース

上することが期待されます。全球の降水量分布を高精度に推定することは、水関連の災害対策や水資源管理を行う上で極めて重要だと考えています。今後も提案した手法をさらに改善できるよう、研究を進めてまいります。

英文プレスリリースは下記 URL から閲覧できますので、ご関心をお持ちの方はぜひご確認頂けますと幸いです。<https://www.eurekaalert.org/news-releases/1070377>

(武藤裕花)

日本気象学会 2024 年度秋季大会で松野賞受賞！

ニュースレター11月号でご紹介した日本気象学会 2024 年度秋季大会で入江研究室修士 1 年の溝渕準也さんが松野賞を受賞しました。松野賞は、自身が主体的に行い、独創性が高く顕著な成果の得られた研究に関し、優れた発表をした学生を表彰するものです。

発表者：溝渕準也（大学院融合理工学府博士前期課程 1 年／入江研究室）

発表題目：「MAX-DOAS 法による大気下層水蒸気濃度の水平不均一性の長期連続観測」

<受賞者の声>

入江研究室 修士 1 年の溝渕準也と申します。2024 年 11 月 12 日-15 日につくば国際会議場で行われました、日本気象学会 2024 年度秋季大会にて松野賞を受賞いたしましたことをご報告申し上げます。

私は気象予報Ⅱのセッションにて口頭発表をいたしました。このような賞をいただくことができたのは、指導教員の入江先生をはじめとする先生方のご指導や、研究室の学生・スタッフの皆さまのお力添えによるものです。この場をお借りして感謝申し上げます。学会発表に向けたゼミでは、多くのフィードバックをいただきながら試行錯誤を重ね、より良い研究成果へとつなげることができました。また、発表当日も多くの方から貴重なご質問やコメントをいただくことができました。まだまだ未熟な点多々ございますが、今後とも研究に真摯に向き合い、更なる成長を目指して取り組んでまいります。引き続きご指導のほど、よろしく願いいたします。



受賞おめでとうございます

<今月の CERes セミナー>

開催日：2025 年 1 月 31 日

発表者：堀口明友美さん

(気象大学校 学部 4 年／伊藤研究室)

題目：UAS 搭載用小型測器を用いた
低コスト係留気球観測手法の検討

